

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
宇都宮市立清原北小学校	宇都宮市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の概要

実践的なコミュニケーション力の育成を目指して、会話科「英会話の時間」と「ことばの時間」を設定している。

外国語活動としての「英会話の時間」では、宇都宮市の標準授業時数を上回る授業時数を確保し、常駐する外国人の小規模特認校英語指導業務担当者（AET）が、毎時間英語によるやり取りを中心とした授業を行っている。また、オクラホマ州タルサ市の学生や宇都宮大学との交流、修学旅行などの学校行事や総合的な学習の時間との教科横断的な学習などに関連付けて取り組み、コミュニケーション能力を高める工夫をしている。

「ことばの時間」では、子どもたちがさまざまな人々と協力し共に生きるために必要なコミュニケーションを図ろうとする態度や、考えたことや伝えたいことを目的や状況に応じて話したり伝えたりする能力を育成することを目標としている。日本語による表現力の向上を目指し、アナウンサーやミュージカルなどの専門技術を持つ外部講師の方々の授業を設定するとともに、夢育劇場や朗読発表会で発表したり、毎日の校内放送や昼会タイムでのスピーチを行ったりして学習の成果を発揮する機会を設定している。

2. 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に係る評価

項目	評価項目	主な具体的な取組	評 価
目指す児童の姿	児童は、英語を使ってコミュニケーションをしている。 【数値目標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 朝の放送や献立発表を英語と日本語の両方で、継続して行う。 ② AET が朝の準備や清掃、給食指導などの機会を捉えて英語で話しかけ、担任も英語を使ってほめたり励ましたりすることにより英語表現に慣れさせ、自然なコミュニケーションを推進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 84.3% 教職員の肯定的回答 84.2% 【次年度の方針】 ① 児童の興味関心や発達段階に応じて、英語での朝の放送や、献立発表を引き続き行う。 ② AET や担任が日常の中で積極的に英語で話したり、やり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。
	児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 清北タイムの諸活動において、児童の主体的な活動を重視して展開したり、スピーチの場を計画的に位置づけたりする。 ② 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、校内研修を行い、各教科や会話科の指導内容・方法・評価などの工夫改善に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 80.2% 教職員の肯定的回答 88.9% 【次年度の方針】 ① 引き続き、児童の主体的な活動を重視して展開したり、スピーチの場を計画的に位置づけ聞き手を意識したスピーチの指導を行ったりする。 ② 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、各教科や会話科において聞くことを重視した授業の展開を工夫する。

＜学校関係者による評価＞

- ・ 「きよきた船頭まつり」において、「英会話の時間」の授業内容の一部を発表したところ、英語によるコミュニケーションの様子に感心されていた。
- ・ 「ことばの時間」の集大成となる「夢育劇場」（ミュージカル・劇）の様子を参観し、表現力が高まったとのこと意見をいただいた。

3. 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

保護者に対しては、学級懇談会等において特別の教育課程に関する取組について説明したり、会話科通信「HEART to HEART」や学年だよりで活動の様子を紹介したりした。また、地域住民やその他の関係者に対しても、学校だより「夢育通信」やホームページにおいて説明・紹介した。

さらに、実際に児童とともに授業に参加して会話科の学習に親しんでいただけるよう「きよきた聴講講座」を設定し、回覧板を活用し、保護者だけでなく広く地域住民へ周知し参加者を募った。また、地域との連携行事「きよきた船頭まつり」で、会話科で学んだ英語の歌や群読を発表したり、全市一斉の土曜授業日に「夢育劇場」と題して、ミュージカル「鬼怒川のいのち」や創作劇「船頭物語」を披露する機会を設けたりして参観していただいたことにより理解を深めた。

4. 実施の効果及び課題

毎年12月に宇都宮市の全小中学校が実施している「学習と生活についてのアンケート」の結果を見ると、3年生以上の学年で、「外国語活動（本校の場合は英会話の時間）は将来のために大切だと思っている」の肯定的回答は99.0%であった。これは、授業だけでなく毎日の生活の中で、自然に英単語を耳にすることができるよう、朝の校内放送や給食の献立発表、健康観察でのやり取りなどを日本語と英語の両方で行うなど、日常生活で英語に触れる機会を増やしたことによる効果であると考えられる。

日本語によるコミュニケーションの基礎となる部分については、「相手の話を、最後まできちんと聞いていますか。」の肯定的回答は94.2%、「話し合いに自分から進んで参加していますか。」の肯定的回答は80.9%であり、おおむね満足な結果が得られた。

5. 課題の改善のための取組の方向性

外国語活動に苦手意識をもっている児童も見られることから、児童が自信をもって答えたり聞いたりできるように歌や絵本、様々な活動を行う中でさらにたくさんの英語に慣れ親しませたい。また、英語で会話をすることに抵抗を感じている児童に対しては、ゲームや絵本などの英語を聞いて楽しむ活動を増やし、英語でのやり取りの楽しさを感じられるようにしていきたい。他教科等と比較して、外国語活動は、「できる、できない」がはっきりし、「できない、自信がない」と感じている児童が多いように思える。担任とAETで役割を分担し、英語を使ってコミュニケーションを図ることができたという実感をもたせられるよう、個に応じた効果的な指導を引き続き行っていく。

日本語によるコミュニケーション力の育成にあたっては、話し合い活動を充実させ、全ての児童に司会者等の役割を経験させるなどの機会を設ける。また、聞く力・話す力の育成を図り、話し手の意図を考えながら聞く力や、話の展開に沿って自分の考えを述べる力を身に付けさせたい。